

2021年度 第4回 郵博 特別切手コレクション展

# 富士鹿切手発行百年記念切手展

展示作品解説パンフレット



主催

郵政博物館、特定非営利活動法人郵趣振興協会

後援

無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

郵政博物館における展示期間

2022年1月4日(月) - 16(日) 10:30-16:30

クラウド展示期間 同上

<http://www.stampedia.net/stamp/ex/4/>

\*クラウド展示は、右のQRコードからご覧いただけます。



## 富士鹿切手とは？

1840年に英国で最初の切手が発行されてから半世紀近くの間、世界の切手のデザインは、為政者（王や政治家）の顔や紋章、神、そして額面数字に装飾を施したものが大半で、今日のように多くのトピックがデザインに取り上げられるようになったのは、19世紀末の事でした。



1840 英国 ヴィクトリア女王



1847 米国 ワシントン



1848 フランス セレス（農業神）



1849 独バイエルン 数字

中でも「風景」を切手デザインに採用することが、英仏植民地を中心に、20世紀を迎える頃から世界的に流行し初めました。インターネットがなく、電話の普及率も低かった当時は、手紙そして郵便切手こそが外国に自国を紹介する最も手軽な方法でした。領土・領有の訴求や観光客の誘致等の観点からも「風景」こそ切手に最も適した題材だったのです。



1904 仏領ギアナ（南米）



1894 ハワイ王国



1932 英領モンテセラート（カリブ海）

この潮流をうけて発行された日本初の風景意匠切手が富士鹿切手で、1922年から1937年にかけて発行され、今年で100年を迎えました。

そもそもこの切手は、1920年の第7回UPU（万国郵便連合）総会における加盟国の外国郵便料金の値上決定をうけて発行された切手です。決定を受けて、1922年1月1日より日本の外国郵便料金（船便）はそれまでの2倍の20銭（書状）、8（葉書）銭、4銭（印刷物）に値上げ

されました。1921年に、これらの額面の切手は存在しましたが問題がありました。それは、外国郵便基本料金用の切手は、書状＝青、葉書＝赤、印刷物＝緑とする、UPU 推奨の刷色の取り決めがあった為です。



1921年の現行切手より



フランスの外国郵便用切手、UPU 推奨刷色

このため青色の20銭、赤色の8銭、緑色の4銭が発行される事になりましたが、今度は他の額面の切手と色がかち合う問題が生じ、意思決定の過程で、既存意匠の流用でなく、新意匠の採用が決定されました。

外国郵便の基本料金は、その後1925年と1937年に改訂され、それに応じて、改色された「富士鹿切手」や異なる風景図案の「風景切手」が発行され、時代を彩りました。



## 郵政博物館収蔵品特別展示

### 富士鹿 20 銭切手 原画 ( 逓信博物館員 樋畑 雪湖 )

印刷物である切手には、原画や試し刷り等が存在します。これらはアーカイブ（公文書）と呼ばれています。明治および昭和時代に発行された切手のアーカイブを所有する収集家は多いですが、大正時代発行の富士鹿・風景・田沢切手はその例外でアーカイブが殆ど存在しません。

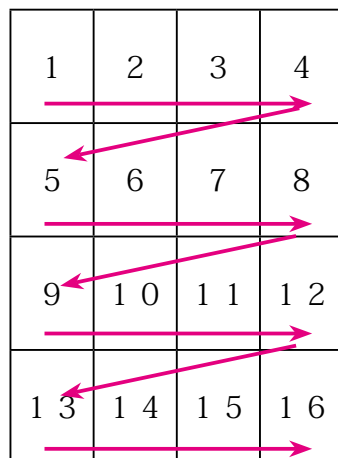
本展示では、富士鹿・風景切手の、存在する唯一のアーカイブである「富士鹿 20 銭切手 原画」を特別展示します。この原画は、郵政博物館の前身である逓信博物館のスタッフだった 樋畑 雪湖 が描いたものです。



#### 切手コレクションの観覧順序

切手コレクションは、「展示リーフ」という用紙に整理されて展示されています。この「展示リーフ」は 16 枚ごとにパネルに収められ、各パネルで右図の順に展示されています。従って、各パネルの展示リーフは、上段から順に、左から右へとご覧ください。

なお、切手コレクションの整理方法には様々なやり方がありますが、この展示方法は、分かりやすさ・コストなどの点で現在最も普及している方法で、欧米だけでなく、アジア、オセアニア、中近東、アフリカの各国で広く同様の方法が採用されています。



## 富士鹿・風景切手（抜粋）（3）

天野 安治

天野 安治（あまのやるはる）さんは、富士鹿・風景切手を研究したパイオニアの1人です。富士鹿切手の発行百年を迎えるにあたり、冒頭の作品を飾っていただくに相応しい方と考え、ご本人より旧蔵品の展示についてご快諾頂きました。

かつてのコレクションの半分をしめていた未使用は既に他のコレクションに移動しているため、今回の展示は使用例を中心にした抜粋展示です。単行本などに掲載されたマテリアルが多数含まれる貴重な展示ですので、じっくりご覧ください。

## 富士鹿・風景切手（3）

故 横矢 仁

2019年に逝去された横矢 仁（よこやひとし）さんは、天野さんと同じ広島県にお住まいの医師でした。広島市の切手サークル『広島蒐郵会』に参加される中で、天野さんの薫陶を受け、富士鹿・風景切手の収集を開始され、地道にコレクションを充実させてきました。

しかし、他のシリーズは何度も競争切手展に出品していた横矢さんも、富士鹿・風景切手だけは展示する機会がつかないまま、ご病気になられてしまいました。そのような中、2019年初頭から気力を振り絞り、全80ページを一から作り直し、最後の切手展となったJAPEX2019に出品したのが本作品で、狙い通りの大金銀賞に輝きました。

3年前から『2022年には富士鹿切手発行百年記念切手展を開催したい』と希望されていた故人のご遺志を継承し、またご家族の皆様にご承諾を頂き、本展覧会への本作品のクラウド展示が実現しました。

## 富士鹿・風景切手 (8)

吉田 敬

UPU 平面路料金向けの切手意匠「富士鹿・風景切手」について、未解明の印刷版について専門研究を行った上でまとめた伝統郵趣コレクションです。この切手が製造されていた大正末期から昭和初期は、切手の製造技術が大きく改善されていた時期です。一見すると同じに見える切手も、裏にある基礎技術が異なり、製品上の差異として現れています。

右ページの緑色の切手は、富士鹿 4 銭切手の最初の印刷版で刷られたシートの完全品で一点しか確認されていません。この切手は同一図案で 1921 年から 1937 年まで製造されましたが、印刷版の種類は現時点での最新研究で 7 種類にまで区分できるようになりました。

その違いは切手上や切手の周囲の余白（耳紙）に現れます。例えば、右ページで赤丸がついている切手 10 箇所には全て同じ版欠点が見られます。このことから、印刷版を作るにあたり、図案を 100 回転写したのではなく、十個の図案の塊を 10 回転写したことがわかります。この製造方法は、1921-1925 年頃のシートに見られ、1926 年以降は 25 個の塊を 4 回転写する方式に変更されます（展示作品の 6 ページ参照）。

また、右ページの切手シートは随分斜めになっていますが、これは切手製造時の裁断技術が未熟だった為に生じた傾向です。1929 年に十字トンボが導入されたことにより、それ以降の切手シートは真っ直ぐに裁断される様になりました（展示作品の 7 ページ参照）。

1930 年（昭和 5 年）代半ばに差し掛かると、製造技術はほとんど完璧になり、その後発行される第一次昭和切手で戦前の最高状態を迎えることとなります。同切手の品質の高さ（少なくとも戦前時点での）は、世界的に見ても誇れるものですが、それに至る切手製造技術改善の歴史を切手に語らせることができる、「富士鹿・風景切手」は、知的で非常に面白いテーマだと感じます。

なお、本作品は、昨年開催された国際切手展 PHILANIPPON 2021 の金賞受賞作品です。国際展ルールに従い全ページ英文表記です。





通常の鹿



上のシートで10枚ごとに現れる版欠点

## 富士鹿・風景切手 1922-1940 (5)

伊藤 純英

この作品は、1922年の料金改定から1937年の料金改定の期間中に発行された外信料金用を意図して発行された切手図案のうち、富士鹿・風景切手について、各シリーズごとに額面順に展開した伝統郵趣作品である。

【モノログ】大学卒業後、東京本社の出版社に就職。大阪の支社に配属。そこで、当時唯一のオークションハウス/カメラアスタンプに頻繁に出入。また日本フィラテリックセンターのメールオークションは知る人ぞ知るドクター市田の出品物が目的。夜と休日は会合。JPS 関西専門例会の世話人、関西郵趣連盟の昭和切手研究会の世話人を務めたほか、いつしか関西の重鎮の集まる「郵楽会」へ誘われ月例会に参加。ここで多くの先輩方の知己を得た。在学中に大学郵趣連盟会長だったことで参加資格。大西さん、柳原さん、原田さん、西尾さん、関さんは忘れえない。安藤さん、高野さんは今でも切手展などでお目にかかっている。原田さんからは調べてもらい昭和切手の百枚束を譲ってもらい等気にかけていただいた。柳原さんからは富士鹿・風景、新版田沢の銘版付の分譲。組合カタログの評価で、1年間の分割。本コレクションの大半の由来。不足分はその後オークションで補充。白眉は旧版改色8銭。

3枚連のうち右側切手に白抜大ヘゲ。その後、天野・魚木2人展を見て驚いた。同じヘゲがある切手が展示してあったのだ。瞬間定常変種だと確



信した次第。長崎県の教員は離島勤務が義務だが、長い離島勤務を終え、2002年上陸。切手作品作りの余裕。長崎外信・昭和切手以外にも、小判切手、新版田沢、そして富士鹿・風景切手作品制作。全日展2006にレジェンド柳原友治に対するオマージュを込めて作品として結実させ出品。この作品で初めて旧版改色8銭銘定常変種を発表・展示。他にも昭和毛紙10銭単貼航空葉書の顛末、風景2銭の平面版2枚掛銘版等想いは尽きないが割愛する。





# 富士鹿・風景切手

## 1922-1940

1922年の外信料金の改正により、新切手を発行する必要が生じ、UPU規定の3色による富士鹿切手3種が発行された(第1フレーム)。

1925年料金改定で前代未聞の料金値下げ。その翌年新料金に対応するため発行されたのが風景切手である(第4フレーム)。しばらく富士鹿図案と風景図案の2種類のUPU規定色切手を使用されたが、やはり不都合が生じて、1929年に富士鹿図案切手の刷色変更なされた(第2フレーム)。以後12年間料金は据え置きだったが、1937年再び料金値上げされた。これに伴い富士鹿・風景切手が再びUPU色に改色された(第3フレーム・第5フレーム)。

この作品は、1922年の料金改定から1937年の料金改定の期間中に発行された外信料金を意図して発行された切手図案のうち、富士鹿・風景切手について、各シリーズごとに額面順に展開した伝統郵趣作品である。

タイトルの1922年は富士鹿切手発行の年、1940年は次のシリーズである第1次昭和20銭の発行された年である。

### 構成

#### 第1フレーム

1922料金用 富士鹿UPU規定色 旧版切手3種類(大正毛紙)

#### 第2フレーム

1925料金下 富士鹿非規定色 旧版&新版(大正毛紙)

#### 第3フレーム

1937料金用 富士鹿新版UPU規定色(大正毛紙/昭和白紙) & 非規定色(昭和白紙)

#### 第4フレーム

1925料金用 風景UPU規定色3種類(大正毛紙)

#### 第5フレーム

1937料金用 風景 UPU規定色(大正毛紙/昭和白紙) & 非規定色(昭和白紙)

### 注目品

- ①富士鹿・風景の全銘版揃、
- ②全切手の使用例揃、
- ③旧版P12、
- ④旧改8銭定変、
- ⑤昭毛10銭航空便、
- ⑥昭毛20銭郵便初期使用

## 風景切手の郵便史 (3)

杉山 幸比古

1925(大正14)年10月に外国郵便料金が改訂され、書状10銭、葉書6銭、印刷物2銭となった。この改訂に対応する切手として、UPU規定の刷色を用いて1926(大正15)年7月に発行されたのが「風景切手」3種である。その後、3種の刷色等を変更したものを含め、計6種が1926年から1940(昭和15)年ころまで、10数年に亘って使用された。

このシリーズは日本最初の横型普通切手であると同時に、初めて「風景」そのものを主要デザインとした普通切手でもある。目打ちバラエティーなどはなく、地味な印象を与えるシリーズであるが、これらが使用された昭和初期は日本が激動していた時代であり、使用例は極めて多岐にわたり興味が尽きない。本作品では、こういった面からこの「風景切手」を捉える試みを行った。用いたカバーに関連する絵葉書等の資料も加えて、ビジュアルに当時を伺えるように試みた。

様々な切り口から、使用例を紐解いてみたがそのテーマは、(1)歴史を刻む、(2)船内郵便、(3)風景切手UPU3種貼、(4)外国不足料切手貼、(5)ローラー印、(6)穿孔切手関連、(7)速達・別配達、(8)航空便、(9)パクボー便、(10)端数としての緑2銭の使用、(11)ルイスカバー、(12)南満州鉄道、(13)台湾、(14)満州・関東州、(15)南洋諸島、(16)朝鮮、(17)樺太、の17テーマである。

これらの中でも、特に航空便は当時急速に飛行機の発達による航空便輸送網が形成された時期と相まって、国内はもとより海外向けの航空便も著増した。これらの郵便物はその料金の多様性と逋送経路の複雑性から、大変魅力的なテーマとなっている。

また、鉄道輸送の面でもこの時代は楽しいテーマが見られる。南満州鉄道で活躍した、超特急「アジア」号や朝鮮特急「あかつき」である。さらに、外地での使用例も多彩で、これらのリーフから風景切手の使われた時代を感じていただき、一見地味な風景切手の隠れた魅力を再発見していただければ、望外の喜びである。

<風景切手の郵便史>

<1935年~1937年>

**航空便(7) 満州・関東州発着**

(左) 昭和9年(1934年)1月1日から、満州国内の航空料金が有料となり、内地-満州間の航空割増料金はそれまでの15銭から18銭に値上げとなった。

(右) 関東州の大連のみは、従来の内地-朝鮮間の航空割増料金15銭がそのまま適用されていた。



<大阪発々芝S10. 7. 10→奉天中央7. 12>

<大連中央S12. 8. 8→小石川8. 9>

# STAMPEX JAPAN 2022

26TH- 28TH MARCH  
NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION

STAMP EXHIBITION  
STAMPEX  
JAPAN  
2022



AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN  
TOKYO SKYTREE TOWN "SORAMACHI"



<http://kitte.com/stampex2022>